

幼稚園部会の活動

山田 有希子

1. 組織と運営

本部会は、日本教育大学協会（以下、教大協）の会員大学・学部設置されている附属幼稚園の教員360余名余りで構成されており、代表は、全国国立大学附属学校連盟（以下、全附連）幼稚園部会部会長と同じ園長が勤めている。また、両部会員は両方に所属し、活動は共同で運営されている。

2. 活動の内容

(1) 附属学校連絡協議会

6月にお茶の水女子大学で、教大協の附属学校連絡協議会と全附連の附属学校連盟総会が同日開催される。その後、幼稚園部会総会が設定されている。主な内容は次の通りである。

①前年度幼稚園部会報告（活動・会計報告等）

②本年度幼稚園部会報告（役員決定・活動・会計報告等）

なお、総会前日には、幼稚園部会副園長会総会・情報交換会及び副園長研修会を開催し、会員相互の連携を深め、部会の充実を図っている。

(2) 附属学校連絡協議会校園長分科会幼稚園部会（8月）

附属学校連絡協議会副校園長分科会幼稚園部会（10月）

両幼稚園部会とも、それぞれ、例年2園が発表を行い、協議を深めている。また、近年、副園長分科会においては、文部科学省委託研究の主題に関連した講演会を行っている。

3. 全附連幼稚園部会の活動及び研究発信について

本部会の研究活動としては、年1回開催の『幼稚園教育研究集会』、文部科学省委託研究受託園への協力、各園の研究発表の機会としてのリーフレット作成、がある。

(1) 幼稚園教育研究集会開催

全国各地持ち回りで開催しており、平成30年度には第64回を迎える。例年、全会員8割以上が参加している。理事会等を含め、開催期間は全3日間である。内容は、文部科学省講話・各種講演と、現代課題に即した4つのテーマを設け分科会を行っている。各分科会では2園ずつから提案を受け、参加者は4つの分科会に分かれ、協議を深めている。

開催地区同様、分科会提案についても、全所属園が輪番で行い、相互協力のもと、運営推進している。なお、研究成果として抄録集を作成し、各分科会内容の共通理解及び、研究成果の発信を図っている。

(2) 文部科学省委託事業の受託園への協力

平成21年度に全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会として「協同して学ぶことに関する指導の在り方」を受託した。平成26年度からは、毎年、中心となる受託園に、幼稚園部会として、研修会開催や事例提供等の協力体制を整えている。

平成 29 年度

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導や評価の在り方に関する調査研究

国立大学法人鳥取大学

協力：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

平成 28 年度

「幼児期に育みたい資質・能力を支える指導方法と評価に関する研究

－幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点から－

国立大学法人神戸大学

協力：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

平成 27 年度

「幼児期の科学的思考を支える非認知的能力の発達様相

－好奇心・やり抜く力・協同性の視点から－

国立大学法人鳴門教育大学

協力：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

「幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究－完成・表現の視点から－

国立大学法人お茶の水女子大学

協力：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

平成 26 年度

「多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究」

国立大学法人千葉大学

協力：全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

(3) 研究リーフレット作成

平成 17 年度第 1 号「幼児教育と小学校教育をつなぐために」より毎年テーマを設け、そのテーマに見合った 5, 6 園の研究成果を掲載している。また、各回テーマに応じた専門家等のコラムも掲載している。

平成 29 年度第 13 号「遊びの中での主体的・対話的で深い学び」では、内容の充実と、掲載希望が多数あったこともあり、掲載園を 7 園に増やした。

このリーフレットは、例年 10,000 部前後作成し、各地域教育関係諸機関等への配布を行い、広く、附属幼稚園の研究をアピールする手段ともなっている。



(平成 29 年度幼稚園部会事務局 東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎副園長)